

芦安登山道整備作業

針葉樹会 前神直樹様

芦安から高谷山（芦安登山道の整備作業）

2019年5月25日（土） - 26日（日）

同行者 針葉樹会（岡田、小島、佐藤久、吉沢（正）、井草、佐藤活、加藤）

25日快晴

8:45甲府駅に集合するところ、予定していたが、高速の渋滞に巻き込まれて遅れるため我々はタクシーで芦安に向かう。芦安山岳館に辿り着くと、芦安ファンクラブの方や富士通の方々は既に揃っていて、弁当を受け取ると早速夜叉神トンネル東口へ。



そこから、何度行っただろうか桧尾峠に向かう。砂防工事が行われている箇所までは傾斜も急で登山道の崩壊も進んでいる。若しも多くの登山者がこの道を辿ることになれば道も踏み固められて安定した登山道になるのだろうがなかなかそうもいかず、整備と崩壊の繰り返しになることが口惜しい。登山道の整備を行いながら進んでゆくと、傾斜が急なだけに、整備で止むを得ず起きる落石が下で整備作業を行っている人を直撃などという、あってはならない事故にならぬよう注意を払う。カモシカが居るという声を聞き、目を凝らすが残念ながらこの目で見ることが出来なかった。しかし下に転がる糞の多さから言えばこの山域には随分の数のカモシカあるいは日本鹿が生息していることが容易に想像される。この日雲一つ無い快晴でめちゃくちゃ暑くなると思いきや、心配していた汗ぐっしょり状態にはならず、やはり高度の所為なのかと安堵する。

桧尾峠に着くと昼食だが、ここに咲くイワカガミは通常はピンクだが白い花であるが故にカイ（甲斐）イワカガミと呼ぶと教わる。さてこの日はここから急登で高谷山に登る登山道整備だが、ここからは傾斜は急だが尾根道を辿るようになっているだけに崩壊している箇所もあまりなく、ところどころ小工事を行いながら高度を稼いでゆく。



確かに急な登りで、頂上がそこかと思うと次の登りになっているという具合でなかなか頂上には辿り着かないが、それでも大きな山でもなく一時間程で頂上着。ここから明瞭な登山道が北上していて夜叉神峠にのびているが、この道を見て遅まきながらこの辺りの地形図が腹落ちする結果となった。高谷山頂上では白い花を見つけて「シロヤシオ？」と訊けば、ムシカリ（オオカメノキ）との事で、本当に花の名前を覚えるのは大変だと思う。

帰りもあまり修復は必要ないが、これがあれば助かると思しきところにトラロープを張りながら桧尾峠に帰り着く。休んでいると高谷山から登山者2人が下りてくる。曰く「桧尾峠から下りる道が無ければ稜線を桃の木温泉まで下るつもりでしたが道があってほっとしました。ありがとうございます。」と涙の出るような言葉、こういう登山者がどんどん来てもらえれば整備のし甲斐もあろうかと思う。

26日晴れ

翌 26 日も空は晴れ上がるが、昨日同様多分汗でぐっしょりは無いだろう。8:30より昨年も参加した安全祈願祭があり出席。この付近の各山小屋のご主人も参列されていたが、なかなかしめやかな式で、山登りでは宿命ではないかと思う上り下りの事故が起きないようにと祈る。環境省や自治体の方々の挨拶からも登山道の保全本が大変なことを感じた。

祈願祭が終わると作業開始。この日は桧尾峠から中池へのトラバース道整備だが途中完全に崩壊しているところがあり、ここの補修は本当に作業になった。前日中にある程度まで補修作業は終わっており、それを引き継ぐ形で補修路を延伸させる。1 時間近く作業を行うと崩壊地帯を巻いて行く道が完成し、以前のトラバース道に吸収されてゆく。一部手直ししながら進んでゆくとほどなく中池に到着。この中池は気持ちの良い所でちょっと足を延ばして稜線状のところに立つと木々の間からまだ雪をたっぷり付けた白根三山がみえる。安全祈願祭でも話が出ていたが、少しでもいいので視界が開けるくらいの最低限の伐採を認めてほしいと環境省の方への話があった。確かにその通りでこの視界が大きくなると絶景であることに違いない。そうすればよい宣伝にもなって多くの登山者が歩いてくると期待すること切である。

中池で一休みすると、まさに補修を終えた道を桧尾峠に戻る。このような補修作業に参加していると、これまであまり意識してこなかった夜叉神峠から楡形山に続く山域が非常に興味深く思えてくる。そうした山道が整備されれば登山者は飛躍的に伸びるだろうと期待が膨らむ。

